

令和5年度 公社等経営評価シート  
(対象期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

概要	名称	一般社団法人宮崎県家畜改良事業団		所在地	児湯郡高鍋町大字持田5734番地		
	電話番号	0983-22-3020		ホームページ	<a href="http://www.mwia.or.jp/">http://www.mwia.or.jp/</a>		
	設立年月日	昭和44年9月30日	代表者	理事長 坂下 栄次	県所管部・課	農政水産部畜産局 畜産振興課	
	総出資額	98,000 千円		県出資額	40,000 千円	県出資比率	40.8%
	設立目的	肉用牛の改良及び増殖を促進するため、種雄牛を繋留し、家畜人工授精用凍結精液の計画的な製造管理、肉用種雄牛産肉能力検定推進を行う。					
特記事項							

内容		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
改革工程	①公社等のあり方見直し	凍結精液の安定供給のため、飼養管理方法及び採精技術の向上により体制強化を図った。	凍結精液の安定供給のため、飼養管理方法及び採精技術の向上を図り、経営の安定化と体制強化を図った。	凍結精液の安定供給のため、飼養管理及び採精技術の向上を図り、経営安定と体制強化を図る。	
	②公社等の経営見直し	経営・事業運営改善 中長期的な経営改善計画の策定・実施	衛生面や作業効率を考慮した施設整備計画を県と協議し、防疫面に最大限配慮した上で敷地内に事務室を移設した。	衛生面や作業効率を考慮した施設整備計画を県と協議した。	衛生面や作業効率を考慮した施設整備計画を継続的に県と協議する。
		財務改善 安定的経営に向けた収益確保	会計処理の視点から費用軽減に向けた検討を実施した。	会計処理の視点から売上高の増加と経費削減に向けた検討を実施した。	会計処理の視点から売上高の増加と経費削減に向けた検討を実施する。
		組織等適正化 適切な事業推進に係る経営指導の実施	適正な経営に向けた県との協議を適宜実施した。	適正な経営に向けた県との協議を適宜実施した。	適正な経営に向け、県との協議を適宜実施する。
	③県と公社等の見直し	人的支援見直し 県職員の役員就任の見直し検討	適正な経営に必要な体制の検討を実施した。	適正な経営に必要な組織体制の検討を行った。	適正な経営に必要な組織体制の検討を行う。
		財政支出見直し 県補助金の見直し検討	肉用牛改良事業を円滑に進めるとともに、今後の予算のあり方について県と協議した。	肉用牛改良事業を円滑に進めるとともに、今後の予算のあり方について県と協議した。	肉用牛改良事業を円滑に進めるとともに、今後の予算のあり方について県と協議する。
④情報公開推進	ホームページでの情報公開	種雄牛や検定結果等について適宜情報公開に取り組んだ。	種雄牛や検定結果等について適宜情報公開に取り組んだ。	種雄牛や検定結果等について適宜情報公開に取り組む。	

	(人)	令和4年度			令和5年度				
		合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
県関与の状況	人的支援								
	役員数	21	1	1	19	21	1	1	19
	常勤	2	0	1	1	2	0	1	1
	非常勤	19	1	0	18	19	1	0	18
	職員数	25	0	0	25	25	0	0	25
財政支出等	(千円)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(千円)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	県委託料	133,256	127,445	126,106	県借入金残高	0	0	0	
	県補助金	0	0	0	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	
	県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費(県支給分)	0	0	0	
その他の県からの支援等									

主な県財政支出の内容	事業名	事業内容	令和4年度 決算額(千円)	令和5年度 予算額(千円)	種別
	①	宮崎県肉用牛改良総合対策事業	産肉能力を把握するための直接検定及び現場後代検定を実施する	126,106	126,594
②					
③					
④					
⑤					

実施事業	① 肉用種雄牛の繋養管理 ② 肉用牛凍結精液の製造及び譲渡 ③ 肉用牛凍結精液の購入及び譲渡 ④ 凍結精液の普及及び効果の確認 ⑤ 肉用種雄牛の産肉能力検定事業							
	活動指標	指標名	算式(単位)	令和4年度			令和5年度	令和6年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
	①	凍結精液譲渡本数	(本)	133,000	132,483	99.6%	133,000	133,000
②								
③								
指標の設定に関する留意事項								

財務状況	収支計算書 (千円)				貸借対照表 (千円)				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
収入	A	622,356	593,269	613,279	資産	A	1,041,079	1,016,982	1,046,524
事業収入		315,766	301,412	322,362	流動資産		761,486	730,302	777,149
補助金等収入		133,256	127,445	129,536	固定資産		279,593	286,680	269,375
上記以外の収入		173,334	164,412	161,381	負債	B	280,091	251,766	255,642
支出	B	597,164	589,041	587,613	流動負債		94,207	75,514	81,772
事業費		484,810	491,424	467,975	固定負債		185,884	176,252	173,870
管理費		95,168	89,382	97,962	正味財産	A-B	760,988	765,216	790,881
その他の支出		17,186	8,234	21,676	うち基本金		0	0	0
当期収支差額	A-B	25,192	4,228	25,665	うち当期正味財産増減額		25,192	4,228	25,665

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

財務指標	指標名	算式(単位)	令和4年度			令和5年度	令和6年度
			目標値	実績値※	達成度(%)	目標値	目標値
①	自己収入比率	(自己収入+自主事業収入) / 当期支出合計 × 100 (%)	80.0	79.3	99.2%	80.0	80.0
	※ 令和4年度 実績値の算式	(143,755千円+322,362千円) / 587,613千円 × 100					
②	管理費比率	管理費 / 当期支出合計 × 100 (%)	20.0	16.7	116.6%	20.0	20.0
	※ 令和4年度 実績値の算式	97,962千円 / 587,613千円 × 100					
③							
	※ 令和4年度 実績値の算式						
指標の設定に関する留意事項							

直近の県監査の状況	事務局監査(令和4年10月31日)の結果、指摘事項が2点あり、それぞれに対し改善状況の報告を行った。 1) 会計経理、決算及び資産管理等について 適切な事務処理が行えるように工事発注規程の一部改定を行い、工事契約保証を付する条件を整備した。 2) 規程、帳簿等について 固定資産の取得について、入札手続や契約書の作成に関する具体的な事務処理の方法を補完するための内部規程を整備した。
-----------	---

総合評価	公社等自己評価 県内の繁殖雌牛への授精頭数の減少や受精卵の利用増加により、凍結精液譲渡本数は減少している一方で、価格の高い上位ランク種雄牛の凍結精液の利用が増えたことにより事業収入が増加した。 また、自己収入の増収や事業費の大幅な削減ができたことで、9期連続の黒字決算となった。	県所管部課二次評価 検定成績が優れた能力の高い県有種雄牛の凍結精液価格を改定したことにより、今後は安定した事業収入が見込まれる。 また、費用の節減(事業費の削減)が図られ、自己収入比率が高まり、9期連続の黒字決算を達成していることから、本県の肉用牛経営の要となる施設として安定的な供給体制が構築されていると評価できる。
	評価 (A:良好, B:ほぼ良好, C:やや課題あり, D:課題多い) 改革工程 A 活動内容 A 財務内容 A 組織運営 A	評価 (A:良好, B:ほぼ良好, C:やや課題あり, D:課題多い) 改革工程 A 活動内容 A 財務内容 A 組織運営 A
	目標達成度 	公社等改革推進委員会三次評価 活動内容について、わずかに指標の目標値を下回るものの、凍結精液の安定的な供給体制は実現されており評価できる。 財務内容については、価格の改定に事業収入の増加や経費削減等、長期にわたり安定的な経営が実現できており評価できる。 引き続き、凍結精液の管理体制の強化を図りながら、優秀な種雄牛の造成と凍結精液の安定供給に取り組むことが求められる。